

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 6 日現在

機関番号：37102

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24820070

研究課題名(和文) 賀茂真淵の『源氏物語』研究とその受容

研究課題名(英文) The Study of the Genji Monogatari by Kamo no Mabuchi and Its Reception

研究代表者

天野 聡一 (AMANO, Souichi)

九州産業大学・国際文化学部・講師

研究者番号：50596418

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円、(間接経費) 690,000円

研究成果の概要(和文)：賀茂真淵の書き入れのある『湖月抄』を基本資料として、そこから真淵の『源氏物語』解釈を調査した。真淵による『湖月抄』への書き入れは数次にわたっている。今回の調査では、その改稿過程を分析することで、真淵の『源氏物語』解釈の変遷を明らかにした。また、真淵の門弟にとって『源氏物語』が和文創作の重要な規範であったこと、その一方で彼らの『源氏物語』解釈は必ずしも真淵のそれと一致しているわけではないということを解明した。

研究成果の概要(英文)：By examining several different layers of Kamo no Mabuchi's handwritten notes in his copy of the Kogetsu sho, I have clarified the development of Mabuchi's interpretation of the Genji Monogatari. Moreover, I was able to conclude that, despite the fact that the Genji Monogatari was an important model for Mabuchi's students in composing Japanese prose, their interpretations of this work did not necessarily conform to that of their teacher.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：賀茂真淵 源氏物語 湖月抄 国学 注釈

## 1. 研究開始当初の背景

報告者は、近世期に書かれた和文小説を調査してゆく中で、賀茂真淵の門弟(県門)が積極的に和文小説を著していることに気付いた。しかも、その傾向は加藤千蔭・村田春海・清水浜臣といった在江戸の県門、いわゆる江戸派の国学者に顕著であった。その理由を考えるに、彼らが真淵の『源氏物語』研究を継承していたという事実が注目される。もっとも、県門の『源氏物語』研究者といえば本居宣長が高名である。しかし、宣長は、彼自身が述べる通り、真淵の『源氏物語』注釈書である『源氏物語新釈』(以下、『新釈』と略記)を通覧していない。後述するように、『新釈』は、宣長ではなく、江戸派の国学者たちによって保管・転写されるなどして受け継がれたのである。そして、近年鈴木淳氏が明解に指摘したように、真淵の『源氏物語』研究は門人たちの和文制作に大きく寄与していたのであった(「近世後期の源氏学と和文体の確立」2007)。

真淵の学問は、なぜ門人をして和文小説を創作せしめたのか。真淵門人は、真淵の学問の何を受け継ぎ、いかにして和文小説を著したのか。そして、それらの和文小説は、同時代においてどのような位置をしめ、どのような影響を与えたのか。

本研究は、かかる問いに答えるべく、真淵～千蔭・春海～浜臣の三世代にわたる国学者に注目し、賀茂真淵の『源氏物語』研究の実態と、それを受け継いだ門人たちによる和文小説創作との関連を通史的に分析するものである。

## 2. 研究の目的

### (1) 賀茂真淵についての研究

賀茂真淵が著した『新釈』は、『源氏物語』の本文に頭注・傍注を付した形の注釈書であり、その注釈範囲は『源氏物語』全巻にわたっている。本テーマで扱う重要な資料は『新釈』の草稿本(真淵が自筆で記し、そこに真淵自身が訂正を加えたもの)である。草稿本は、思考の痕跡を具体的に辿ることのできる絶好の資料であり、真淵の『源氏物語』研究を分析する際の一級資料といえる。(なお、報告者は実践女子大学にこれまで知られていなかった草稿本が存在することを新たに報告している[「賀茂真淵『源氏物語新釈』考」2009])。そこで、本テーマでは、草稿本と最終稿本(国文学研究資料館寄託資料)とを全面的に比較することにより、『新釈』の生成過程を詳細に分析し、真淵の『源氏物語』研究の実態を究明する。

### (2) 加藤千蔭・村田春海についての研究

加藤千蔭の歌文集『うけらが花』正編(享

和元(1801)年刊)には、二編の和文小説が収録されている。ともに『源氏物語』に取材した作品である。実は、先述した『新釈』草稿本(実践女子大学蔵本)は、全体としては千蔭旧蔵本であり、巻によっては千蔭の自筆書き入れも確認できる。そこで、この資料から千蔭の書き入れを抽出し、分析を加えることによって、千蔭の『新釈』享受の様相、および和文小説との関わりを実証的に観察してゆく。

一方、千蔭と共に江戸派の隆盛を築いた村田春海には、『竺志船(つくしぶね)物語』(文化十一(1814)年刊)という未完の和文小説がある。また、現在確認されている『新釈』の諸本は、大まかに分類すると二系統に分けることができるのだが、そのうちの一つは村田春海が『新釈』の第一稿に基づき、自説を書き加えたものである。そこで、春海本『新釈』に書き加えられた春海の自説を収集・整理し、春海の『新釈』享受について分析し、『竺志船物語』との関係を再度検討する必要がある。

それとともに、当代の読本についての目配りをも忘れてたくない。というのは、当代の読本界の第一人者である曲亭馬琴が再三にわたって『竺志船物語』に言及しているからである。馬琴は、『竺志船物語』をはじめ、石川雅望の読本を挙げ、和文小説の存在を厳しく批判・否定している(『近世物之本江戸作者部類』等)。しかし、『竺志船物語』に限っては一方的な批判ではなく、未完に終わったことを惜しむなど、一定の価値を認めているのである(『南総里見八犬伝』簡端贅言)。そこで、馬琴の一連の言説を整理しつつ、本作について分析を施す。

### (3) 清水浜臣についての研究

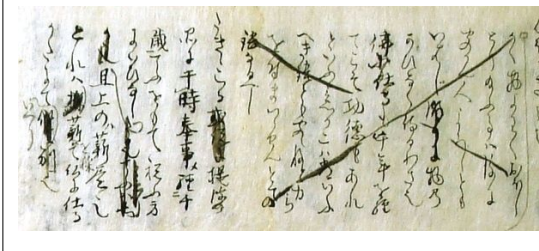
病床の春海が『竺志船物語』の続きを書くように乞うたのは、清水浜臣だったという(泊渚文藻)。その浜臣自身、歌文集『泊渚文藻』に、数編の和文小説を著していた。本テーマにおいて特に注目したいのは、『源氏物語』研究における浜臣と石川雅望との関係である。『源氏物語』を利用した和文小説を著した雅望であるが(『飛弾匠物語』等)、『源氏物語』中の語彙について浜臣と議論するなど、両者の学問上の交流は浅くない。(一連の問答は、『清石問答』として後に書籍化)。両者の関係については、これまで具体的な検証は行われてこなかった。しかしながら、『清石問答』を見ると、『新釈』の価値について議論するなど、真淵の『源氏物語』研究の継承という点でも見逃せない。そこで、『清石問答』を中心に、浜臣と雅望の『源氏物語』研究を分析することで、両者の交流と、和文小説創作との関係を追究してゆく。

## 3. 研究の方法

### (1) 賀茂真淵についての研究

『新釈』草稿本の画像については、すでに入手している(科学研究費補助金研究課題「近世中後期における源氏物語注釈と和文小説創作 近世和文小説の系譜的研究」2011年度)。そこで、まずは『新釈』の最終稿本と目されている田安家本の原本を実見し、テキストデータを入手する。これは、田安家本の所蔵先である国文学研究資料館に赴き、原本の要所をノートに書き写すという方法によって実行する。また全冊にわたってデジタルカメラで撮影する。

賀茂真淵『源氏物語新釈』草稿本(部分)



『新釈』生成過程についての研究は、以下のように行う。『新釈』の草稿本に目を通してみると、真淵は一度書いた注釈文の上から取消線を引いたり、語句挿入を行ったり、場合によっては注釈部分全体に大きく×印を付けてこれを抹消し、その傍らに一から新たな注釈文を書き直すなど、おびたしい訂正を加えている。そのため、訂正前・訂正後の注釈文を判読することは容易ではない(上写真は実践本の一部)。しかしながら、草稿本の判読困難箇所も、『新釈』の最終稿本(田安家本)と付き合わせることで、かなりの部分まで読むことができる。報告者は、実際にこの方法を用いて、実践女子大学蔵の草稿本からいくつかの訂正例をピックアップして翻刻し、推敲過程を分析した。その結果、最終稿本だけを見ては分からない、真淵の源氏物語解釈の一端を明らかにすることができた(拙稿「賀茂真淵『源氏物語新釈』考」2009)。この方法を、実践本以外の草稿本にも適用する。

### (2) 加藤千蔭・村田春海についての研究

千蔭の書き入れが多数ある実践女子大学所蔵『新釈』(実践本)については、すでに全冊にわたってデジタルカメラ撮影を済ませてある。そこで、実践本以外で加藤千蔭の書き入れが確認できる『新釈』の画像を入手する。無窮会専門図書館に赴き、マイクロフィルム複写を行う(当館はデジタルカメラ撮影が出来ないため)。また、千蔭の書き入れが報告されている『源語梯』(東北大学所蔵)も、ぜひ原本を撮影しておきたい。一方、春海が著した『竺志船物語』は、刊行された本の他に、草稿本が存在している。そこで、所蔵先である天理図書館に赴き、全冊のマイク

ロフィルム複写を行う。

### (3) 清水浜臣についての研究

浜臣の和文小説は彼の和文集である『泊渚文藻』に収められている。報告者は、すでに『泊渚文藻』の一本を購入・所蔵しているが、本書は写本として行われたため、収録作品の違いなど、諸本間の異同が少なからず存在する。そこで、『日本古典籍総合目録』等を活用し、全国に存在する『泊渚文藻』の諸本を収集したい。ちなみに、『日本古典籍総合目録』は17本の異本を報告しているが、報告者は、すでに静嘉堂文庫、筑波大学、宮内庁書陵部、国文学研究資料館に赴き、7本の概要調査を済ませ、データ入力用のエクセル・シートを作成している。

### 4. 研究成果

#### (概要)

賀茂真淵の書き入れのある『湖月抄』を基本資料として、そこから真淵の『源氏物語』解釈を調査した。真淵による『湖月抄』への書き入れは数次にわたっている。今回の調査では、その改稿過程を分析することで、真淵の『源氏物語』解釈の変遷を明らかにした。また、真淵の門弟にとって『源氏物語』が和文創作の重要な規範であったこと、その一方で彼らの『源氏物語』解釈は必ずしも真淵のそれと一致しているわけではないということを知り解明した。

### (1) 賀茂真淵についての研究

国文学研究資料館が所蔵する『新釈』の最終稿本である賀茂真淵書き入れ『湖月抄』の全巻全冊にわたる影印を入手し、真淵の書き入れ箇所について、網羅的に調査した。特に、訂正を重ねた箇所を抽出し、その箇所について、重点的に調査し、訂正前・訂正後の注釈文をノートに書きだしていった。

この作業は当初想定していたよりも時間がかかったが、既刊の真淵全集を活用することにより、作業の合理化を図った。

訂正前・訂正後の注釈文を比較すると、総じて、訂正後の注釈文が簡略・単純になっていた。良く言えば簡にして要を得た注釈文となっているのだが、一方、説明不足と想われる箇所もあり、訂正後の注釈文には、真淵の解釈がかえって分かりにくいものになっている箇所が複数存在していた。真淵の『源氏物語』解釈を考える際には訂正前の注釈文を併せて参照するべきである、ということを確認した。

### (2) 加藤千蔭・村田春海についての研究

無窮会専門図書館が所蔵する加藤千蔭書き入れ『新釈』、天理図書館が所蔵する『竺

志船物語』については全巻全冊にわたる影印を入手した。

また、『新釈』の書き入れから千蔭・春海によるものを抽出し、ノートに書きだしていった。そこから得られた解釈をもとに、千蔭・春海の和文小説についての注釈を作成した。

千蔭・春海は『新釈』の所蔵・管理に大きく関与している。その一方で、抽出した『新釈』書き入れを分析するに、彼らの『源氏物語』解釈は真淵のそれと必ずしも一致しているわけではないことが分かった。

なお、馬琴の読本観における『竺志船物語』についての考察は、近時発見・報告された馬琴の自作批評書『著作堂旧作略自評摘要』を踏まえる必要が生じた。そのため、早急な結論は避け、まずは同書の分析を進めることにした。

### (3) 清水浜臣についての研究

『泊渚文藻』の諸本を収集し、校異表をエクセルで作成した。また、『泊渚文藻』に納められている物語文を翻刻し、注釈を作成した。その結果、浜臣の和文の特色として、和文の題材(テーマ)に漢詩文の教養が投影されていることが分かった。これは、白話小説の翻案として、和文小説を執筆した村田春海の姿勢と軌を一にするものである。

また、『清石問答』についても諸本を収集し、『源氏物語』解釈における石川雅望と浜臣との関係をまとめた。雅望には雅言を集めた『雅言集覧』の編述があり、そこには彼の『源氏物語』解釈をうかがうことの出来る項目がいくつも存在する。そこで、『雅言集覧』と『清石問答』と比較して見ることで、雅望の解釈の変遷を抽出・分析した。併せて、雅望と浜臣の関係を探るためにも、『泊渚文藻』の注釈にその成果を加えた。

### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

天野聡一、加藤景範『いつのよがたり』の当代性、雅俗、査読有、12号、2013、2-14

天野聡一、神代を描いた読本 - 『大日本国開闢由来記』と宣長・隆正 -、アナホリリッシュ國文學、査読無、3号、2013、33-42

天野聡一、近世における古典文学の受容 - 五井蘭洲と上田秋成を例として、九州産業大学国際文化学部紀要、査読無、54号、2013、165-166

〔学会発表〕(計 1 件)

天野聡一、近世における古典文学の受容、九州産業大学国際文化学会、2012

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

日本文学 Internet Guide  
<http://densigatoru.shidareyanagi.com>

### 6. 研究組織

#### (1) 研究代表者

天野 聡一 (AMANO, Souichi)  
九州産業大学・国際文化学部・講師  
研究者番号：50596418

#### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

#### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：